

漁場保全対策推進事業（抄録）

後藤悦郎・石田健次・勢村 均

1 目的

漁獲対象生物にとって良好な漁場環境の維持、達成を図るため、水質、生物のモニタリング調査を実施し、漁場環境の長期的変化を監視する。

なお、調査の詳細は「平成9年度漁場保全対策推進事業調査報告書（海面）」に報告されているので、ここではその概要について記述する。

2 調査項目

概要を表に示した。

		調査地点	回数	調査項目、内容
水質調査		鹿島町5点 西ノ島町6点	隔月	水温、塩分、D0を水深別(0, 2.5, 5, 10, 15, 20, 30, 40、底から2m)に測定。その他として水色、透明度等の測定。
生物 モニタリング 調査	藻場調査	鹿島町12点 西ノ島町10点	6, 8月 6, 9月	調査対象面積、水深の測定。生育密度を5段階で評価。
	底生生物 調査	鹿島町5点 西ノ島町5点	6, 8月 6, 9月	底泥の温度、粒度組成、COD、TS、底生動物の 個体数、湿重量、種別または類別分類

3 結果概要

水質調査

透明度は鹿島町では7～24mで最も岸に近い地点は河川の影響により低く、西ノ島町では4～19m 湾奥から湾口に向けて高くなる傾向があった。

水温は鹿島町では12.1～26.3℃、西ノ島町では11.9～24.5℃であった。

塩分は鹿島町では29.08～34.52‰、西ノ島町では32.68～34.80‰であった。

D0は鹿島町では6.88～8.99mg/L、西ノ島町では6.28～8.84mg/Lであった。

生物モニタリング調査

鹿島町では多年生大型褐藻類のクロメ場12.5ha（水深3.7～16.5m）を観察した結果、6, 8月とも2～5点、平均が3.5点と3.8点であった。

また、SM型採泥器1回当たりで採集された底生動物の個体数は5地点の合計で6月が1732個体、8月が464個体であった。また、湿重量は6月が4.48g、8月が1.60gであった。類別の構成割合は、6月が多毛類64.4%、甲殻類19.6%、その他15.9%、8月が多毛類61.0%、甲殻類21.6%、その他17.5%であった。

西ノ島町ではガラモ場0.3ha（水深2.0～6.9m）を観察した結果、6月が1～5点、平均3.2点、9月が1～4点、平均2.9点であった。

また、SM型採泥器1回当たりで採集された底生動物の個体数は5地点の合計で6月が916個体、9月

が500個体であった。また、湿重量は6月が6.41 g、9月が3.60 gであった。類別の構成割合は、6月が多毛類78.0%、甲殻類11.9%、その他10.1%、9月が多毛類81.8%、甲殻類2.2%、その他16%であった。また、地点によっては硫化水素臭が観察された。

底生動物、底泥調査の結果から鹿島町に比較して西ノ島町では海底が汚れていると考えられる。